

登録コード	SSD05500	開講年度	2026			
授業題目	変形構造解析論				担当教員	常盤 哲也
英文授業名	Structural Analysis				副担当	
単位数	2	講義期間	通年	曜日・時限	不定期	
講義室					備考	
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】				【授業の達成目標】	
	2 6 SSカリ・理学, 2 5 SSカリ・理学, 2 4 SSカリ・理学					
	【DP5】専門知識に基づいた見識を持ち, その妥当性を理論的に説明し, 議論する能力				変形構造を解析する上で必要な構造地質の知識を学び, 変形構造の基礎的解析ができるようになる.	
(2)授業の概要	断層や褶曲などの変形構造を生じさせる歪や応力状態など岩石が変形するメカニズムの基礎について理論や実験結果を用いて解説し, 地質体中にすでに存在する変形構造から歪や応力状態を解析する手法についての解説も行う. また, 変形構造解析を用いた先端研究や応用研究についての事例についても解説するとともに, 現地調査にてデータを取得し, 変形構造解析を行う.					
(3)授業のキーワード	プレート, 変形, 断層, 褶曲					
(4)授業計画	第1回: 変形構造解析とは 第2回: 変形構造の種類 第3回: 変形構造の形成メカニズム(レポート課題) 第4回: 歪 第5回: 応力 第6回: 変形相(レポート課題) 第7回: 断層の形成過程 第8回: 断層岩の種類・分類 第9回: 断層の構造解析(レポート課題) 第10回: 節理の形成過程 第11回: 節理の構造解析(レポート課題) 第12回: 褶曲の形成過程 第13回: 褶曲の構造解析(レポート課題) 第14回: 造山帯における変形構造解析(レポート課題) 第15回: 応用地質学における変形構造解析(レポート課題) 定期試験は実施しない					
(5)成績評価の方法	単元ごとに行うレポートの内容に基づいて判断する. 9割以上を秀, 8割以上を優, 7割以上を良, 6割以上を可, それ以下を不可とする.					
(6)成績評価の基準	変形構造の分類が理解できていればC(60~69点), 変形構造の地質学的成因が理解できていればB(70~79点), 変形構造を形成するための物理条件が理解できていればA(80~89点), さらに上記の全ての項目に関して特に正確に理解できている場合はS(90~100点)とする.					
(7)事前事後学習の内容	学習単元ごとにレポート課題を課す.					
(8)履修上の注意	特になし.					
(9)質問,相談への対応	随時					
【教科書】	指定しない					
【参考書】	指定しない					